

## 2006年11月号 倫理的な消費は地球を救う？ ～フェアトレード・グリーンコンシューマー・CSRの光と影

### NIジャパン No.83 2006年11月号 倫理的な消費は地球を救う？

< 内容 >  
(本文は日本語です)

#### イントロダクション

宇宙船地球号の船頭たち

#### 2 子孫につけを残さない行動を

倫理的な消費は大流行しているかもしれないが、それがすぐに社会や地球に変化をもたらすわけではない。できるだけ早く変化を起こすためには、私たちは何に気をつけ、どう行動すればいいのだろうか。

#### 10 フェアトレードの魂が直面する危機 単なるマーケティング戦略として参入

する大企業によって、フェアトレードが危機に直面している。フェアトレードは何のために、そして誰のために存在しているのか？ 今立ち止まって考えなければ、真のフェアトレードに未来はない。

#### 17 エコとオーガニックを脅かすスーパーマーケット

大量生産・大量消費の象徴であるスーパーマーケットでも、エコやオーガニックなものをよく見かけるようになった。しかし、本当にエコでオーガニックな消費者にとって、スーパーマーケットは新たな選択肢となるのだろうか。

#### 21 スウェットショップをなくすためには

搾取工場で作られた服は着たくないからと、ナイキやギャップをボイコットしてきた人もいるだろう。しかし、単なるボイコットや「スウェットショップ・フリー」の服を買うだけでは、実は搾取工場の現実はなかなか改善されていかない。

#### 25 倫理的な消費者への道

倫理的な消費を考えるためのポイントと情報。

#### 28 【日本発のレポート Reporting from Japan】

日本に倫理的消費者運動は芽生えるのか  
北澤 肯(フェアトレード・リソースセンター)

#### 31 コンタクトポイント

#### 32 世界の国のプロフィール タイ

#### 36 世界のニュース

\*\*\*NIジャパンはNIからの翻訳記事を中心に構成されています\*\*\*

NI (英語、A4・カラー、約40ページ) と日本編集のNIジャパン (日本語、A5・モノクロ、40ページ) をセットでお届けします。

【定期購読 (1・2月号は合併号のため年11回発行)】

NI & NIジャパン	1年 (11冊) = ¥10,500	2年 (22冊) = ¥19,000
NIジャパンのみ	1年 (11冊) = ¥5,000	2年 (22冊) = ¥9,000
NIのみ	1年 (11冊) = ¥8,000	2年 (22冊) = ¥14,000

【最新号 / バックナンバー】 > > > ¥400 ~ ¥1,000

欧米のショッピングセンターでは革命が起きている。かつては、ヒッピー、左派、熱心なキリスト教信者、NI読者などの専売特許だった「倫理的な物事」が突然流行になった。オーガニック、フェアトレード、スウェットショップ・フリー (搾取工場で作られた物ではない)、地球に優しい等の商品が雨後の竹の子のように毎年発売され、「倫理的な消費」は徐々に大きなビジネスになっている。最も非情な多国籍企業でさえ、自分たちがいかに地球のことを考えているのかを消費者に知ってもらおうと必死である。かつてはすき間市場にすぎなかった倫理的な商品だが、少しずつ普通の市場にも進出してきている。しかしこのような状況にも喜んでばかりはいられない。大企業の参入によって、今、倫理的なものの本質にかかわる議論が巻き起こっている。今月は、倫理的市場の現状とその行方を探る。

NI No.395 November 2006

Ethical shopping - a magic bullet to save the world?

< 内容 >  
(本文は英語です)

#### 買い物中毒への説教

ストップ・ショッピング教会のピリー師が行う、買い物にとりつかれた迷える人々に対するありがたい説教。

#### 21世紀の消費者像

消費者の好みや影響力が変化していくなかで、消費者はどのように分類できるのだろうか。

#### パンクロック資本主義？

アイルランドのロックバンド、U2のボノが立ち上げた企業との協働企画「プロダクトRED」。これは、世界エイズ・結核・マラリア対策基金 (世界基金) に対する資金支援策の一つだが、それは果たして見事な (inspiRED) ものなのか、それとも無分別な (ilconsideRED) ものなのか。

ウェブサイトに翻訳を掲載中

#### モンテビデオで考える

冷戦は終わり、鉄のカーテンとベルリンの壁は崩れ去った。しかし今でも世界のあらゆる所に壁が築かれている。その一つが、モロッコが実効支配する西サハラに築かれた壁で、その長さはベルリンの壁の60倍にも及ぶ。モロッコが西サハラに侵攻して30年以上が過ぎたが、国際社会の関心は依然として低い。

---そのほかの記事についてはウェブサイトをご覧ください

\* ホームページでは、購読お申し込みやバックナンバー照会、無料メールマガジン申し込み等がご利用頂けます。

